

令和5年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 6月予報

【 水稲 】

いもち病 (葉いもち)

箱施薬を実施していないほ場では、葉いもち初発生(6月4半旬頃)の7~10日前に粒剤施用を行ってください。なお、一部地域では補植用の置き苗で苗いもちの発生が確認されています。置き苗はいもち病が発生しやすく、伝染源となる可能性が高いため、速やかに除去をしてください。

また、当所では、アメダスデータ(気温、降水量、日照時間、風速)を用いた「いもち病発生予察システム(BLASTAM)」を使用し、日ごとの感染好適条件の判定結果を情報提供していますので、ご活用ください。

(<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2993.html>)

【 かき 】

カキノヘタムシガ (カキミガ)

成虫の見取り調査では、春期の高温傾向によって発蛾最盛期は5月8日と平年(5月19日)より早くなりましたが、発生量は樹あたり0.8頭(平年1.9頭)と少ない状況でした(裏面図参照)。発蛾最盛期から7~14日後より幼虫の果実への食入が始まるため、防除適期は5月下旬頃となりました。例年発生が多く認められるほ場では、さらに7~10日後に追加防除を実施してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期(6月)

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬	
水稲	生育(コシヒカリ)								・田植え 5/11 (農業技術センター)
	生育(ハツシモ)			<田 植 え>					・田植え 6/9予定 (農業技術センター)
	葉 い も ち	やや多				<初発生>			・箱施薬を実施する。
	縞 葉 枯 病	少		<初発生>					・ 縞葉枯病 感受性品種では、縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。
	ヒメトビウンカ	多	<第1世代成虫>						を媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。
	ニカメイガ	少			<越冬世代成虫>				
	防 除 適 期		~ ■葉いもち・ヒメトビ・ニカメイガ ▲葉いもち・ヒメトビ						・ ヒメトビウンカ 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。
かき	生育(富有)	やや早							・開花最盛期 5/13 (平年 5/18: 農業技術センター)
	ハマキムシ類	多						<第1世代成虫>	・ ハマキムシ類 幼虫発生初期の防除を徹底する。
	カキノヘタムシガ	少							・ ミツバチ の導入時期に注意して防除を徹底する。
	フジコナカイガラムシ	少		<第1世代1齢幼虫>					・ フジコナカイガラムシ 虫体に薬液が到達するように丁寧に散布を行う。
	防 除 適 期		▲ フジコナカイガラムシ						
なし	黒 星 病	やや多		<果実発病最盛期>					・本年の初発生は平年より約1か月早い。
	防 除 適 期		黒星病 ▲ ~						・同一系統薬剤の連用は避ける。
果樹	カメムシ類	やや多	<越冬世代成虫>						・夜温が高い場合、突発的にはほ場へ飛来する恐れがあるので注意する。
	防 除 適 期								
茶	生育(やぶきた:池田)	早			<二番摘採期>				
	ハマキムシ類	並						<第1世代成虫>	・幼虫発生初期の防除を徹底する。
	チャノホソガ	やや少	<第1世代成虫>						・ チャノホソガ 発蛾最盛期と萌芽~開葉期が合致すると被害がでるため、1~2葉期に防除を実施する。
	防 除 適 期		▲ チャノホソガ		▲ ハマキムシ類				
野菜	コ ナ ガ	やや少							・薬剤抵抗性が付きやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アブラムシ類	並							・ アブラムシ類 定植時に粒剤を施用する。
	防 除 適 期								

病害虫名		発生量	発生時期及び防除適期	防除上の注意事項
施設野菜	トマト 灰色かび病	やや多	前作では発病が多かったため、曇天が続く場合は発生が多くなると予測される。	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期の防除を徹底する。 施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。 葉かび病 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。 うどんこ病 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。 使用する薬剤は、RACコードを参照して同一系統の連用を避ける。
	トマト 葉かび病	少	前作では発病が少なかった。曇天が続く場合は発生すると予測される。	
	キュウリ べと病	少	調査ほ場では発病が認められない。梅雨時期となるため、今後の発生に注意する。(発病葉率 0%)	
施設野菜	キュウリ 褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。罹病品種では今後の発生に注意する。(発病葉率 0%)	
	キュウリ うどんこ病	並	調査ほ場では発病は認められる。引き続き発生に注意する。(発病葉率 3.1%)	

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬
 注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域
 注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる
 注4) 施設野菜は岐阜、西濃地域の調査結果

カキノヘタムシガ (カキミガ)

カキノヘタムシガは芽付近に産卵し、孵化した幼虫は芽を食害したのち、ヘタ部や果梗から果実内に食入します。幼虫が果実内部に食入すると薬液が届かないため、食入するまでに防除することが重要です。本年の発蛾最盛期は平年より11日早く、防除適期は5月下旬頃となりましたので、発生が多いほ場では1回目散布から7～10日後に追加防除を実施してください。

なお、5月15日に発表した**病害虫情報第2号 (カキノヘタムシガに注意)**も参考としてください。

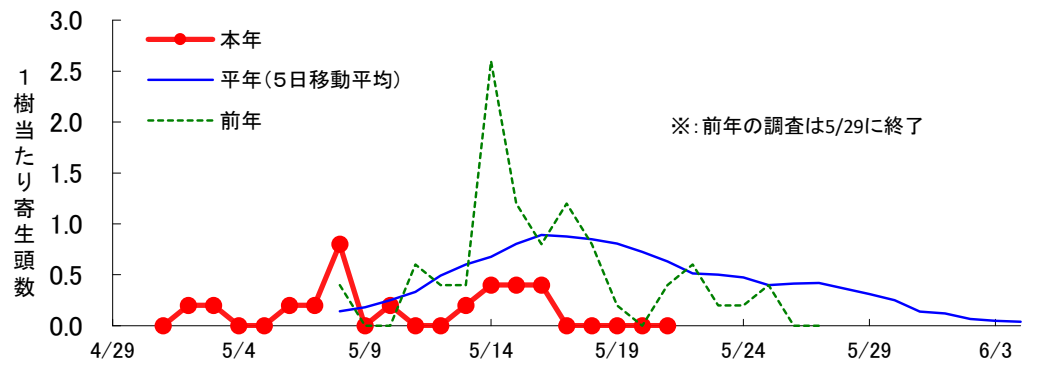


図 見取り調査によるカキミガ(カキノヘタムシガ)越冬世代成虫1樹あたり寄生数の推移 (岐阜市木田)

表1 チャバネアオカメムシの越冬量調査結果

調査地域 (地点数)	R5	平年
岐阜 (3)	0.0	1.1
西濃 (2)	0.5	1.0
中濃 (3)	0.5	1.8
東濃 (3)	0.6	0.6

※ 落葉50Lあたりの頭数
 ※ 12月16日から2月27日に調査

表2 果樹カメムシ類によるサクラ果実吸汁率調査結果

調査地点	吸汁果率 (%)	調査日
岐阜市	73	5月19日
池田町	30	5月22日
美濃加茂市	40	5月18日
美濃市	67	5月18日

果樹カメムシ類 (主にチャバネアオカメムシ)

果樹を加害するカメムシは30種以上いますが、本県の平坦地域での主要な加害種はチャバネアオカメムシです。本年の越冬量調査では、岐阜、西濃、中濃地域で平年より少なく、東濃地域で平年並となりました(表1)。春期の果樹カメムシ類は、サクラなどの果実を餌として生育します。サクラ果実への吸汁率が75～80%を超えると餌として適さなくなり、スギやヒノキの球果へ移動しますが、餌が不足すると果樹園などへ飛来します。本年の5月中下旬のサクラ果実吸汁率調査では、指標となる75%近くとなった調査地点が認められました(表2)。今後、指標に達すると、果樹園へ飛来して果実を加害する可能性があります。特に、風が弱く、夜温が高い薄暮時(日没後2時間位)に活動が活発となるため、園内をよく観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。

6月～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 5月25日発表)

向こう1か月の気温は、平年並か高いでしょう。また、期間のはじめは高気圧に覆われて概ね晴れますが、その後は前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。
<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>
 〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
 トップページ
 QRコード